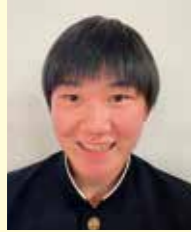




U15・中体連を終えて

令和4年度、7月に行われた「高山市中学校総合体育大会」において、男子は松倉中学校が、女子は中山中学校が優勝しました。同飛騨地区大会では、松倉中学校は準優勝、中山中学校は第3位となり、飛騨高山ビッグアリーナで行われた県大会に出場し、健闘しました。

益田春葵 (松倉中学校)



ありがとう！バスケットボール

正直、県大会で負けてしまったことが悔しかった。でも、3年間を通してたくさんのことが成長できたと思う。特に感じていることは「感謝」だ。バスケットボールの技術や生き方について教えてくださった先生方、県大会まで一緒に頑張ったチームの仲間、これまで一番近くで支えてくれた家族に本当に感謝しています。3年間バスケットをしてきて、本当に楽しかった。そして、バスケットボールを選んで本当によかった。

岩花希美 (中山中学校)



目標としていた県大会ベスト8にはとどかなかったけれど、八年ぶりに県大会に出場できたことを誇りに思っています。

中体連を終えて感じたこと…それは、「やっぱりバスケットボールが大好き。」ということです。練習が辛い時や自分のプレーに納得がいかない時があり、嫌になることもあったけど、家族や先生、チームの仲間に支えてもらって、最後までやりきることができました。とても楽しくて、自分が本気で熱くなれた三年間でした。



松倉中学校男子バスケットボール部



中山中女子バスケットボール部

編集後記

NBA で開幕ロスター入りを果たした渡邊選手が、「チームのディフェンスのお手本となっている」という話を聞きました。さらには、数多くのスーパースターを擁するチームの中でシックスマンとして試合に出ているなど、毎日本当に驚きと感動を覚えます。「450人」。これは、NBAの登録人数だそうです。世界の人口からすると、あの舞台に立てる確率は約0.00000006%の割合で、とてつもなく狭き門です。たどり着くにはとてつもない努力が必要なのは

です。「バスケットボールとは、つらい、えらい、しんどい、……でも楽しい！」ものだと私は考えます。高山でバスケットに打ち込む皆さん。バスケットを心の底から楽しんでますか？どんなときに楽しいと思いますか？きっと人の何倍もバスケットを楽しみながら努力を積み重ねた結果、世界最高峰のリーグでプレーができることに繋がるのかもしれないね。(K.B)



TAKAYAMA AMATEUR BASKETBALL ASSOCIATION
飛騨高山のバスケットボールを盛り上げよう!
編集・発行：高山市バスケットボール協会
tabba.jp

高山市バスケットボール協会は
賛助会はじめ協会を支えてくださる皆様のお力添えをいただきながら地方が疲弊化する中で若者にバスケットボールを通じて夢と誇りを持って頂きこの地域を支える大きな担い手としての存在に大きく成長してくれることをを希望しながらこれからも協会活動に邁進していきます



社会人・高山リーグ2022 (交流戦)

5月から12月にかけて高山リーグの試合が行なわれています。今年度はコロナの影響もあり、昨年同様、順位を決定しない交流戦という形をとりました。やはりコロナの影響は大きく、練習自粛や数試合は残念ながら中止となってしまいました。それでも暗いニュースばかりではありません。今期から新たに新チームが高山リーグに加わりました！チーム名は「INXS」です。年齢も若く、新たな風を高山リーグに吹き込んでくれています。「社会人になっても地元でバスケットの試合ができる環境があるのは凄くありがたいです！」と新チームの皆さんからコメントです。

審判部の皆さんのご協力もあり、交流戦の日程もあと僅かとなりました。

高山リーグ2022、来期2023もコロナに負けず熱いリーグを開催したいと思います！



新規加入チーム「INXS」のみなさん



U12・小学生バスケットボール大会

2022年11月20日、飛騨高山ビッグアリーナに於いて「小学生バスケットボール大会」が開催されました。小学生にバスケットボールの楽しさを感じてもらい、対戦を通して競い合う事の楽しさや学校間を超えた交流を持ってもらい、さらにはバスケットボールの普及を計るのが目的です。

本年は「優勝目指してレッツゴー部門」に4チームがエントリーし「楽しくアットホーム部門」に11チームが参加いたしました。また、中山中学校女子バスケットボール部の生徒さんが前日準備に参加、高山西高校男女バスケットボール部の生徒さんが当日の大会補助員や後片付けに参加し、世代を超えた交流と後進の為に労を惜しまず手伝ってくれる先輩の微笑ましい姿が垣間見れました。

楽しむことを目的に開催された大会にふさわしく参加した子どもたちの笑顔が輝く大会となったことが何よりの喜びです。来年度以降もより良い大会になるよう勤めて参ります。

優勝目指してレッツゴー部門



優勝「プレイボーイズ☆」



準優勝「HANASATO BEAT8」



3位「T・ミニ」



U18・ウィンターカップを終えて

令和4年度第50回岐阜県高等学校バスケットボール選手権大会兼第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会県予選会を終えて、今回は市内の公立高校の選手にインタビューをいたしました。

渡邊大吾 (斐太高等学校男子バスケットボール部 主将)



今大会は、練習から意識しているディフェンスでプレッシャーをかけてミスを誘い、速攻につなげるバスケができました。しかし、イージーミスが目立ったため、次大会にむけ修正を図り、今年度目標の県ベスト8を目指します。

田中天心 (飛騨高山高等学校男子バスケットボール部 主将)



ウィンターカップを終えて、チームの課題として、守備力が課題だと感じました。そのために、今はその守備力をつけるため対人練習を中心に行っています。人数は少ないですが、成果を出せるよう頑張っていきます。

中島 蓮 (高山工業高等学校男子バスケットボール部 主将)



僕達は、この3年間、バスケットボールに全力を注いできました。このウィンターカップでは、チームで積み重ねてきたことを存分に発揮することができました。2回戦で延長までもつれ、敗れてしまいましたが、悔いの無い戦いをすることができました。今後は就職をしますが、この高山の地でバスケットボールに打ち込み、バスケットボールを通してしか学べなかったことを大切にしていきたいです。

尾崎有紗 (斐太高等学校女子バスケットボール部 主将)



私たちは、日々の練習において、主体的に取り組むことを大切にしています。人数は少ないですが、お互いの個性を尊重し合いながら個々のスキルアップを図ることで、それがチームに還元され、いつでも私たちがらしいバスケができるように頑張っています。

橋下芽凜 (飛騨高山高等学校女子バスケットボール部 主将)



本年度のウィンターカップは、初戦敗退と非常に悔しい結果となりました。しかしながら、IH 予選と比べてチームとしての成長を感じる大会でした。この悔しさと自信を糧に、さらなる成長に向けて、チーム一丸となって練習に励んでいきます。